

## 2千人がスマートマスター挑戦 住宅業界からの受験も増加

家製協

000人が受験した。

試験科目は「スマートハウスの基礎」「スマートハウスを支える機器・技術の基礎」の2科目で、マークシートによる筆記試験。過去5回で資格取得者は約5700人。

家電製品協会

認定センター

(森拓生セン

ター長)は3月

3日と6日、両

日合わせ延べ51

会場で第6回

「スマートマス

ター」試験を実

施した。同試験

は「スマートハ

ウス」に対応し

た人材養成を目

的に同協会が16

年9月から実施

しているもの

で、今回は約2



試験開始を待つ受験者

森センター長は「今回の試験で(資格取得者が)累計6000人を超えるだろう。全都道府県で947カ所(3月3日現在)ある『スマートマスター』に相談できる店・オフィスも1000カ所を超える」と予想。『スマートハウス』普及のために家電業界だけでなく、エネルギーや住宅産業界と三身一体で進めていく必要がある。今回の受験者は3割程度が非家電分野で、住宅関係ではZEHビルダー登録の地方工務店や建築会社からの受験者が増えている」と説明した。認定センターでは有資格者拡大のために、今後も住宅関係の業界団体に資格取得を働きかけていく考え。

認定センター公式ウェブサイト (<http://www.aeha.or.jp/nitei-center>)

4月下旬にはテキスト『スマートマスター2019年版』の発刊を予定する。日本が目指す社会「ソサエティ5・0」を詳述すると共に、『スマートハウス』が具現化する暮らしのサポートやサービスの内容も盛り込む。

「スマートマスター」と共に、第36回となる「家電製品アドバイザー」「家電製品エンジニア」の試験も実施。3資格合計の受験申込者数は約1万3000人。18年度の年間受験者数(9月と6月実施)は2万7000人を超え、01年の現行制度発足以来の最高人数を記録している。